

震災の影響を最小限にとどめ黒字化、配当を継続します

平素より、株主の皆様におかれましては、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2012年3月期 第1四半期は当初、東日本大震災の影響による需要の大幅減退に見舞われ、営業収入は前年同期実績に一步及ばず、17億円減収の3,050億円（前年同期比0.6%減）という厳しいスタートとなりました。費用面では、需要に応じた運航規模の調整や費用抑制によるコスト削減策に取り組みましたが、燃油費をはじめとする変動費の増加などにより、営業費用は93億円増加して3,131億円（前年同期比3.1%増）となりました。その結果、当第1四半期の連結決算は、81億円の営業損失、84億円の四半期純損失となり、大変残念ながら2年ぶりの営業赤字となりました。

当第1四半期において、ビジネス需要は回復しましたが、旅行需要の回復は遅れています。

こうした中、4月の段階で見送っていましたが今年度の業績予想を発表しました。通期で営業利益700億円、当期純利益200億円、配当金2円を目標に最大限努力してまいります。

この下半期には、当社が世界で初めて導入するボーイング787型機の就航を予定しています。中型機ながら航続距離が長く、低燃費で機内の快適性

も格段に向上したこの最新鋭機の特長を生かし、ネットワークの充実を図っていきます。

また、7月には成田空港を拠点とする新たなLCC「エアアジア・ジャパン」の設立を発表いたしました。今後の競争環境の変化に適応し、新たな事業分野にも果敢に挑戦しながら、収益性を一層高めるとともに、より身近でお客様に夢と感動をお届けするエアライングループであり続けたいと考えています。

これからも役職員一同、株主の皆様や社会から信頼され続ける企業となるために邁進してまいります。株主の皆様におかれましては、変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



2011年8月

代表取締役社長 伊東 信一郎